

2020.1.12 主の洗礼

イエス洗礼を受ける

マタイ 3章 13-17節

そのとき、イエスが、ガリラヤからヨルダン川のヨハネのところへ来られた。彼から洗礼を受けるためである。ところが、ヨハネは、それを思いとどまらせようとして言った。「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。」しかし、イエスはお答えになった。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」そこで、ヨハネはイエスの言われるとおりにした。イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。

説教

ヨハネの宗教活動の目玉は洗礼でした。具体的にはヨルダン川に浸かって身を清めることです。

ヨハネは、らくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べ物としていた。そこで、エルサレムとユダヤ全土から、また、ヨルダン川沿いの地方一帯から、人々がヨハネのもとに来て、罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた。

マタイ 3:4-6

いかにもむかしの預言者のような格好をしたヨハネに罪を告白してヨルダン川に浸かると救われる、おおくの人たちがそれを信じ洗礼を受けていました。でもそこには条件がありました。

わたしは、悔い改めに導くために、あなたたちに水で洗礼を授けているが、わたしの後から来る方は、わたしよりも優れておられる。わたしは、その履物をお脱がせする値打ちもない。その方は、聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる。マタイ

イ 3:11

ヨハネは水の洗礼だけではないぞ、「聖霊と火」の洗礼もあるのだ、と言い

ます。まじめな人はそうかと納得するかもしれませんが、不まじめな人は救われると聞いたからヨルダン川までやってきたのになんだよ、だまされた、とおもうかもしれません。

ヨハネの洗礼のうわさを聞き付けたイエスさまが「いっちょうオレも洗礼をうけるか」とさっそうとした感じであらわれた、と仮定しましょう。洗礼を受けるというイエスに、滅相もありませんと言うヨハネの問答のあと「主の洗礼」は始まります。

イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。3:16-17

イエスの洗礼はいままでの洗礼とはちょっと違います。多くの人は洗礼を受けても天が開くことはなく、天の声も聴くことはありませんでした。しかしイエスさまの洗礼は天が開き、神の霊によって悟りへの道が開かれたことを示しています。もし、半信半疑でヨハネの洗礼を受けにやってきた人たちもイエスさまの洗礼を目撃したならば「だまされた」とは思わないはずです。

「悟りへの道」とは神に生かされている自分に気づくこと、そして自分だけではなく、わたしたち誰でもが同じように神に生かされていることに気づくことです。

わたしたち一人ひとりが主の洗礼を救いの喜びの中で祝うことができますように。